

## 市内小・中学校の児童生徒への電子図書館サービス

### 1 活動の概要

コロナ禍の緊急事態宣言を受け、市立図書館も休館が続いていたが、利用者の読書をしたいという声からデジタル図書館サービスによる電子書籍を導入した。電子書籍導入をきっかけに、子どもの読書活動のさらなる推進を考えていた市教育委員会と連携し、市内小・中学校在籍の児童生徒に向けて、アカウントの一斉配布が実現した。



電子図書館のアカウント配布は、令和5年度に市内の読書活動重点推進校の7校に向けて一斉付与したことから始まった。令和6年度にはさらに8校に配布し、今後はその他の学校を追加することで、市内の小中学校すべての児童生徒にアカウントを配布する。

### 2 活動の状況、実際

【対象】 秦野市立小中学校の児童生徒

【内容】 以前から学校に向けて団体貸出として数十冊の図書を貸し出ししていたが、電子書籍の導入後は、数千冊の本を一斉に貸し出すことができるようになった。



電子書籍の貸出期間は紙の書籍と同様に2週間とした。電子図書サービスを開始した当初は、児童書が少なかったが、現在は増えてきている。

また、人気のある書籍には100人以上の予約が入り、貸出されるまでに数年待ちといった状況にあった。令和5年10月には電子図書システムに児童向けの読み放題パックを導入し、人数制限なく希望者へ貸し出せるようになった。現在読み放題パックには約150冊の書籍を用意しており、毎年内容を変更し運用していく。

### 3 参加者、指導者等の声

【秦野市立図書館長】

電子書籍のメリットは、時間を気にせずいつでも本を貸し出すことができること。図書館へ来館することが難しい人も電子図書館サービスを利用して、時間や場所を気にせず読書に親んでもらいたいと思う。図書館に配架されているすべての書籍が、電子図書館で読めるわけではないが、このサービスがきっかけとなって、続編が電子書籍にないときには、来館して本を借りる人が増えてほしい。

また、これまで読書へ興味がない児童生徒でも、電子図書館のHPには複数の本の表紙を見ることができる。多くの表紙を見ることで本に興味を持ち、読書へつながることを願っている。

【秦野市教育委員会担当者】

本市では令和3年度より、毎月第一月曜は「よむよむDAY」とするなど、市内の各小中学校の主体性も生かしながら協働して読書活動の重点化を図ってきた。特に、電子書籍の導入に当たっては、図書館の全面的な協力を得て、教職員の多忙化につながらないように配慮するとともに、活用し意欲的なモデル校を公募し、特色ある学校づくりにもつなげている。モデル校の一つとなる小学校では、朝読書の時間に電子書籍を使っている児童が増えており、本に出会うきっかけの1つとして電子図書が有効に機能していると判断している。